

AMR臨床リファレンスセンターの新たな取組みを4月3日(火)よりWEB公開！

「薬剤耐性ワンヘルス動向調査」

都道府県別抗菌薬使用量(販売量)集計データ国内初発表

昨今、薬剤耐性菌の増加が世界的に問題となっており、わが国でも2016年に薬剤耐性(AMR)対策アクションプランが策定されました。昨年4月に厚生労働省の委託事業として設立された国立国際医療研究センター病院 AMR臨床リファレンスセンターでは、アクションプランを実行すべく、さまざまな取組みを行っております。薬剤耐性菌を広げない、作り出さないために、多方面からの対策が求められ、その中でも抗菌薬使用量や薬剤耐性菌のサーベイランス(調査・監視システム)はその基礎になる重要なデータです。

今回、「薬剤耐性(AMR)ワンヘルス動向調査」のWEBサイトの開設ならびに、国内初の取組みとして「国内都道府県別抗菌薬使用量(販売量)統計データ」の公開を、2018年4月3日(火)より行います。

One Health

サイトオープン

薬剤耐性ワンヘルス動向調査 <https://amr-onehealth.ncgm.go.jp>

【ワンヘルスとは】

抗菌薬は人間だけではなく畜産業、水産業、農業など幅広い分野で用いられています。ワンヘルスはヒトの健康を守るだけでなく動物や環境にも目を配って取り組もうという考え方です。

“ヒトも動物も環境も同じように健康であることが大切”というわけです。そのため、薬剤耐性(AMR)対策は、まさにワンヘルスの考え方で取り組む必要があるのです。

【サイトの内容】

日本初の薬剤耐性(AMR)ワンヘルス対策を推進するために重要な統計情報サイトであり、ヒト・動物・食品及び環境から分離される薬剤耐性菌に関する統合的なワンヘルス動向調査データです。

これらのデータは、薬剤耐性(AMR)の現状把握、問題点抽出、適切な施策の遂行に役立てられます。

データは視覚的なグラフと表形式を用意し、直感的でわかりやすく提供します。

データ発表

都道府県別抗菌薬使用量2013年～2016年の4年間の
経年比較データ(抗菌薬種類別/投与経路別)など国内初発表



<http://amrcrc.ncgm.go.jp/index.html>

AMR臨床リファレンスセンターは、2013～2016年の抗菌薬使用量変化など、医療従事者をはじめ行政団体への抗菌薬処方量の意識改革につながる情報を発信し、サーベイランス事業を通じて情報の収集・分析・発信を行っていきます。

情報の公開は、国立国際医療研究センター病院 AMR臨床リファレンスセンター公式サイトにて4月3日(火)より行います。

<本件に関する報道関係者からのお問合せ先>

AMR臨床リファレンスセンター広報事務局 担当：戸田、小石、木下
TEL：03-6427-1627 FAX：03-6730-9713 E-Mail: info@kartz.co.jp

「薬剤耐性ワンヘルス動向調査」Webサイト概要

- ▼開設日：2018年4月3日（火）
- ▼名称：薬剤耐性ワンヘルス動向調査
- ▼URL：<https://amr-onehealth.ncgm.go.jp>



【サイトの概要と目的】

ワンヘルスの視点から、ヒト、動物、農業、食品及び環境の各分野の薬剤耐性菌の状況並びにヒト及び動物の抗菌薬の使用量(または販売量)に関する日本を代表する情報を一つに集約して掲載した初のサイトです。日本における関係各分野の状況をひとつのサイトにまとめあげたことは、薬剤耐性(AMR)対策の大きな一歩です。これらは、世界に発信できる数々の動向調査が日本に存在していることを示しています。

本サイトを踏まえて、多分野間の連携・協力が進み、AMR対策の更なる前進が期待されるとともに、今後も先進的な調査への取組を続けることが、世界のAMR対策をリードする上でも重要と考えられます。



The screenshot shows the homepage of the AMR One Health website. The header includes the 'One Health' logo and navigation links for 'Home', 'Site Purpose', 'Statistics Data', 'Surveillance Activities', and 'Notice'. The main content area features a blue background with the title 'AMRワンヘルス動向調査 2017年度レポート' (AMR One Health Trend Survey 2017 Annual Report). Below the title, there is a text box explaining that AMR (Antimicrobial Resistance) is a change in the pathogen that makes antimicrobials ineffective, and that the website provides information on the current status of AMR and antimicrobial usage across various sectors in Japan.

【統計データ】

○耐性菌・感染症の推移

日本における耐性菌の現状を、ヒト・動物（家畜・養殖水産動物など）の項目別に照会できます。

○抗菌薬の推移

日本における抗菌薬の現状を、ヒト用抗菌薬・動物用医薬品・飼料添加物・農業・環境別に照会できます。

○一般国民の意識

日本における薬剤耐性に関する一般国民の意識の調査結果を照会できます。

○医療関係者の意識

日本における薬剤耐性に関する医療関係者の意識の調査結果を照会できます。

< 本件に関する報道関係者からのお問合せ先 >

AMR臨床リファレンスセンター広報事務局 担当：戸田、小石、木下
TEL：03-6427-1627 FAX：03-6730-9713 E-Mail: info@kartz.co.jp

「薬剤耐性ワンヘルス動向調査」データ例

例) *Escherichia coli*の耐性率の推移(%)[ヒト耐性率]

AMR(薬剤耐性)とワンヘルスの理解を深める統計情報サイト

One Health

ホーム サイトの目的 統計データ サーベイランス事業 お知らせ

ホーム > 統計データ > 耐性菌・感染症の推移 > ヒト > グラム陰性菌 > *Escherichia coli* > *Escherichia coli*の耐性率の推移(%)

*Escherichia coli*の耐性率の推移(%)[ヒト耐性率]

データ元
国内臨床リファレンス事業(JANIS)
<https://janis.mhlw.go.jp/>

大腸菌におけるカルバペナム系抗菌薬への耐性率は1%未満と低い水準に留まっており、現在のところ増加傾向はみられない。一方で、大腸菌におけるセフトキシム(CTX)などの第3世代セファロスポリン系抗菌薬及びレボフロキサシン(LVFX)などのフルオロキノロン系抗菌薬への耐性率は増加傾向にあり、特に重点的な対策が必要と考えられる。

グラフ 数値 ダウンロード



表 1. *Escherichia coli*の耐性率の推移(%)

	BP (~2013年)	BP (2014年~)	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
ABPC	32	32	47.6 (116097)	49.1 (133330)	49.4 (150867)	49.2 (170597)	50.5 (257065)
PIPC	128	128	40.1 (119843)	41.6 (136978)	42.5 (155626)	42.5 (175763)	44.1 (270452)
TAZ/PIPC	4/128	4/128	—	—	2.2 (51286)	1.7 (89442)	1.7 (179222)
★CEZ	32	8	24.4 (122803)	26.2 (141560)	26.9 (161397)	33.3 (183542)	35.8 (268898)
CMZ	64	64	—	—	—	1.0 (163342)	0.9 (260844)
★CTX	64	4	14.8 (99543)	16.6 (113354)	17.8 (124473)	23.3 (140186)	24.5 (209404)
★CAZ	32	16	5.2 (123606)	5.2 (142440)	5.5 (161163)	9.5 (183970)	10.8 (275671)
CFPM	32	32	—	—	10.9 (81456)	12.8 (129606)	15.0 (236705)
★AZT	32	16	8.5 (97906)	9.4 (111930)	10.2 (126777)	16.1 (143046)	17.6 (216494)
★IPM	16	4	0.1 (113820)	0.1 (128289)	0.1 (161007)	0.1 (163181)	0.1 (251050)
★MEPM	16	4	—	—	0.1 (95180)	0.2 (144913)	0.2 (269893)
AMK	64	64	0.2 (123464)	0.2 (141114)	0.2 (161406)	0.2 (184788)	0.1 (281641)
LVFX	8	8	31.4 (117292)	34.3 (136253)	35.5 (155998)	36.1 (178497)	38.0 (274687)

BPの単位はµg/ml。
括弧内は薬剤感受性試験を実施した菌株数。
ST合割は未集計。
★2013年まではCLSI 2007(M100-S17)、2014年以降はCLSI 2012(M100-S22)に準拠している (BP変更前後のメーカーは結んでいない)。
-: 調査を実施していない区分。

BPの単位はµg/ml。
括弧内は薬剤感受性試験を実施した菌株数。
ST合割は未集計。
★2013年まではCLSI 2007(M100-S17)、2014年以降はCLSI 2012(M100-S22)に準拠している (BP変更前後のメーカーは結んでいない)。
-: 調査を実施していない区分。

<本件に関する報道関係者からのお問合せ先>

AMR臨床リファレンスセンター広報事務局 担当：戸田、小石、木下
TEL：03-6427-1627 FAX：03-6730-9713 E-Mail: info@kartz.co.jp

「都道府県別抗菌薬使用量（販売量）集計データ」

- ▼展開日：2018年4月3日（火）
- ▼名称：AMR臨床リファレンスセンター公式サイト
- ▼URL：<http://amrcrc.ncgm.go.jp/index.html>



都道府県別抗菌薬使用量2013年～2016年の4年間のデータ（抗菌薬種類別/投与経路別）など国内初発表

AMR臨床リファレンスセンターでは、薬剤耐性(AMR)アクションプランを実行すべく、都道府県別抗菌薬使用量や使用増減率を発表することにより、医療従事者をはじめ行政団体への抗菌薬処方量の意識改革につながる情報を発信を行います。サーベイランス事業を通じて更なる情報の収集・分析・発信を積極的に行い、薬剤耐性(AMR)の認知、啓発を行ってまいります。



【公開データ】

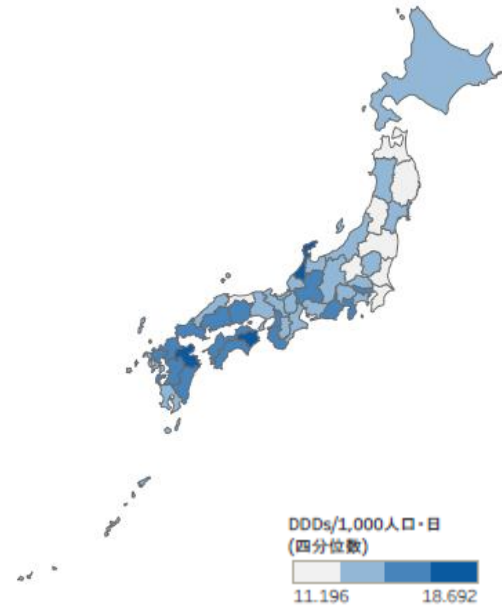
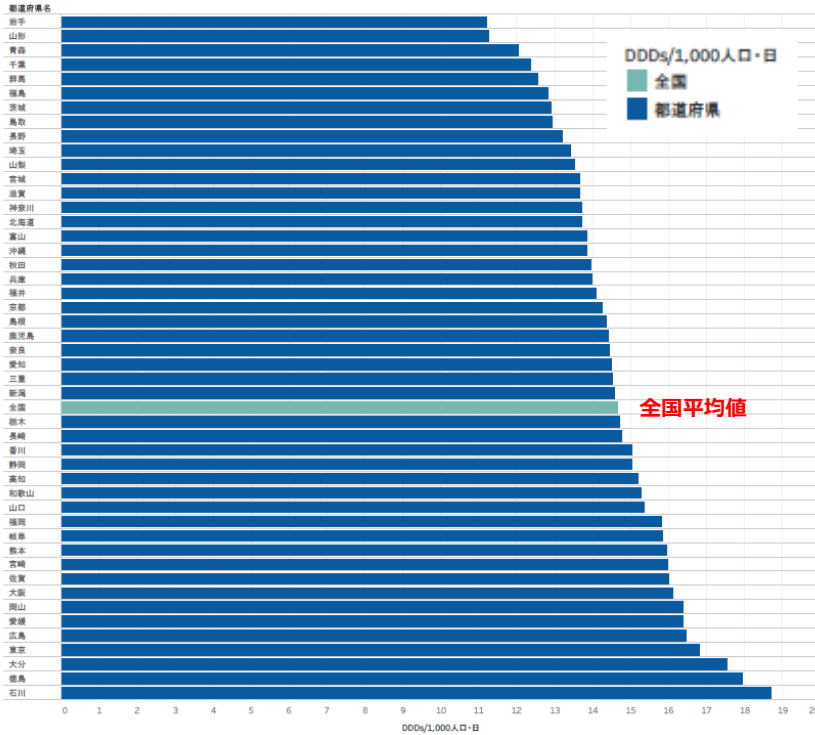
- ・ 抗菌薬使用量変化2013-2016（抗菌薬種類別）
- ・ 抗菌薬使用量変化2013-2016（投与経路別）
- ・ 都道府県別抗菌薬使用量2013-2016
- ・ 都道府県別抗菌薬使用量2013-2016（薬効割合）
- ・ 都道府県別抗菌薬使用量2016（並べ替え）
- ・ 都道府県別抗菌薬使用量2016（地図）
- ・ 都道府県別抗菌薬使用増減 2013-2016
- ・ 都道府県別抗菌薬使用増減 2013-2016（地図）
- ・ 都道府県別経口セファロスポリン系薬使用量2016
- ・ 都道府県別経口セファロスポリン系薬使用量2016（地図）
- ・ 都道府県別マクロライド系薬 使用量2016
- ・ 都道府県別マクロライド系薬 使用量2016（地図）
- ・ 都道府県別フルオロキノロン系薬 使用量2016
- ・ 都道府県別フルオロキノロン系薬 使用量2016（地図）

< 本件に関する報道関係者からのお問合せ先 >

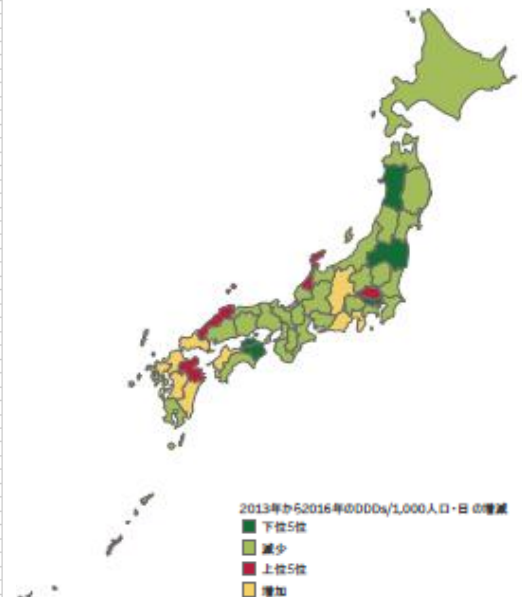
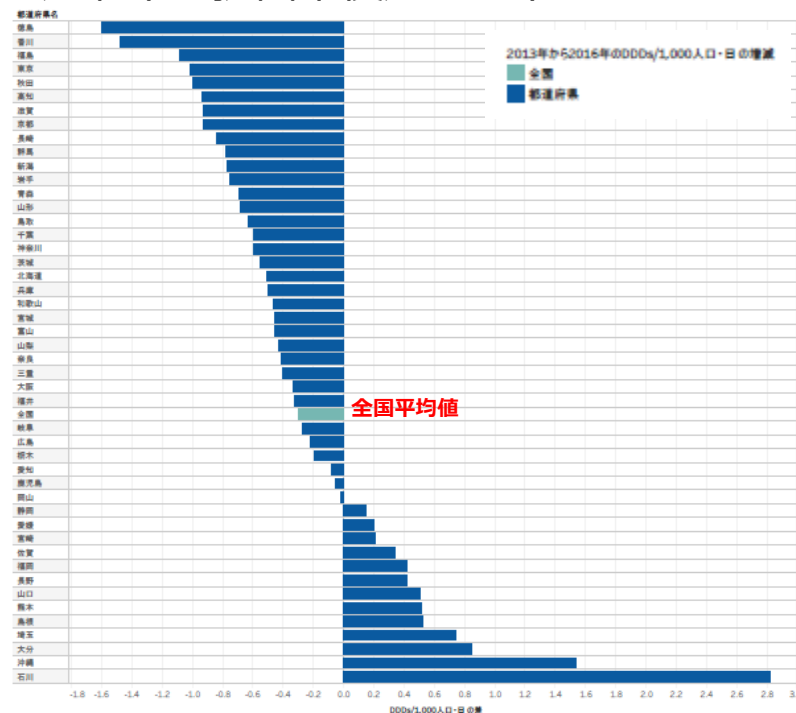
AMR臨床リファレンスセンター広報事務局 担当：戸田、小石、木下
TEL：03-6427-1627 FAX：03-6730-9713 E-Mail: info@kartz.co.jp

「国内都道府県別抗菌薬使用量 (販売量) 集計データ」

都道府県別抗菌薬使用量 2016



都道府県別抗菌薬使用増減率 2013～2016



※グラフやデータ使用の際は ©AMR臨床リファレンスセンター の明記をお願いします。

<本件に関する報道関係者からのお問合せ先>

AMR臨床リファレンスセンター広報事務局 担当：戸田、小石、木下
TEL：03-6427-1627 FAX：03-6730-9713 E-Mail: info@kartz.co.jp